

【目指す学校像】みんなで どんときも りかいしあえる学校

【目指す児童像】かしこい子 やさしい子 たくましい子

みどりが丘小だより

令和4年11月17日発行
鹿沼市立みどりが丘小学校



学校
ホームページ



過ごしやすい季節の中で

先日、来年度入学するかわいい子供たちの就学時健診が行われました。現在、来年度は82名の新1年生が入学する予定となっております。初めての小学校の環境に緊張している子もいれば、元気いっぱい走り回る子もあり、新しいランドセルを背負って登校する日が待ち遠しい限りです。

さて、待望の運動会がもうすぐ実施されます。今年も延期となりましたが、9月に実施するよりも熱中症や台風などの不安もなく、過ごしやすいこの時期に実施した方がよいのかもしれません。ただ、ここにきて第8波の到来と言われており、周辺では感染状況が悪化している学校もみられます。今回を逃してしまうと実施が難しくなることが予想され、感染防止対策を徹底しながら実施したいと考えております。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いします。

生き生き体験活動

<みどりっ子班共遊>



新型コロナウイルス感染状況も落ち着きをみせた10月。異学年交流も再開しました。

<点字教室～4年生～>



4年生は総合的な学習の時間で福祉をテーマに学習を進め、手話と点字の体験学習を実施しました。

<まざあぐうすお話会～低学年～>



「まざあぐうす」の皆さんによるお話会が、低学年で実施されました。児童も大喜びでした。

<栄養指導～5年生～>



栄養のバランスを考えた食事について、学校栄養士の佐藤先生に授業をお願いしました。

<花木センター校外学習～2年生～>



2年生は、お弁当を持って花木センターへ校外学習。天気にも恵まれ、午後は茂呂山で秋探しを行いました。きれいな落ち葉や木の実など、収穫がたくさんありました。

<金管バンド部>



金管バンド部は市合同音楽会に参加しました。日頃の練習の成果を十分に発揮し、堂々と演奏できました。運動会の開閉式でも活躍する予定です。



※ 手をつなぐ親の会研修会の開催について

11月30日（水）14：30より本校を会場として研修会が予定されています。講師に金子英利先生をお迎えし、「支える側の心の健康」をテーマに講話をいただく予定です。心の不安を抱えている本人をサポートする側の健康について、カウンセラーの経験を踏まえて分かりやすくお話しいたします。

新型コロナウイルス感染拡大が3年以上も続き、様々な制限を受ける生活の中で、ストレスを抱えきれなくなり、不登校をはじめ様々な不適應を起こす児童が全国的にも増加しています。そのような子供たちを支える家族の精神的な負担も大きいと思われ、今回の講話は、支える側の健康面において参考となる内容です。

ご希望の方は、今からでも参加可能ですので、学校までご連絡ください。

＊みどりが丘小学校65-4844（担当＝大金）

※ 「欠席・健康観察用フォーム」の活用について

先日から運用を始めた新たな「欠席・健康観察用フォーム」ですが、現在、多くのご家庭で活用いただき、学校としても児童の健康状況を把握する上で大いに役立っております。紙のシートに手書きで記入したり学校へ電話連絡したりする手間が省ける利点を生かし、引き続きご利用いただけますようよろしくお願いいたします。なお、従来通り紙のシートを希望される場合は、担任までご連絡ください。

<校長のつぶやき>

～久しぶりの結婚式・披露宴に参列して～

この歳になると、冠婚葬祭の中でも「葬」に関わることが多くなります。故人を偲ぶと同時に、自身のこれから先のことを改めて考える機会が増えた気がします。

そんな中、久しぶりに姪の結婚式に参列する機会に恵まれました。7月頃から新型コロナウイルス感染拡大の第7波が見え始め、本人たちも実施すべきか相当悩んだそうです。いろいろ悩んだ末、「参加してくれた方々が主役となるような披露宴」をテーマに企画したということでした。確かに、様々なイベントが盛り込まれ、笑顔に包まれた2時間半でした。私の弟の娘で、息子と同年だったため、小さい頃から弟家族と一緒に遊んでいた当時の写真もスライドショーになり、大爆笑の場面も・・・。

こんなに笑ったのは本当に久しぶりで、新郎・新婦だけでなく出席された方々も準主役級になれた気がしました。

以前は結婚式に招待されると、自分の結婚式を思い浮かべていたのに、いつの頃からか娘が結婚するときを想像するようになりました。披露宴終盤の「新婦から感謝の手紙」のときには、涙と鼻水で顔がクシャクシャになり、会場が暗かったおかげで恥をかかずに済みましたが、歳のせいかわりに涙もろくなった自分を情けなく思います。最後の親族代表あいさつで、私の弟が涙も見せずにゆっくりと言葉を噛み締めながら話す姿が会場の人々の心に染みるとともに、弟ながら頼もしい存在に感じました。

久しぶりの結婚式でしたが、コロナ禍の影響もあってか、100人を超える大規模な式ではなく、今は「仲人さん」もおらず、職場の上司も呼ばず、ごく親しい職場の同僚や友人や親族で少人数のアットホームな式に変化しているようでした。でも、若いってすばらしい！まだまだ発展途上の若者たちを温かく見守る幸せを感じた2時間半でした。おかげで自分もこれからの20年、何か新しいことに挑戦してみたいと前向きな気持ちになることができました。

そんなことを言いつつも、自分の娘のときは確実に号泣することが予想されるため、二人だけで海外あたりでひっそりと式を挙げてほしいと願う情けない父親なのでした。

